京北地域小中一貫教育校検討協議会　第３回通学安全検討部会摘録

□日　時　　平成２９年６月２８日（水）２０：１５～２１：２５
□場　所　　京北合同庁舎　大会議室
□出席者　　通学安全検討部会メンバー１９名（２名欠席），事務局及び関係職員１３名
□傍聴者　　７名
□配布資料　資料１　平成２９年度通学安全検討部会名簿・グループ協議名簿
　　資料２　通学安全検討部会について
　　資料３　第２回通学安全検討部会の主な意見
　　資料４　通学バスの運行方法について
　　資料５　通学バス乗車時間・見込人数について

□議事要旨

１　通学安全検討部会の構成について

資料１に基づき，ＰＴＡの役員交代等により今年度から新たに部会員となられた方々の自己紹介を行った。

２　通学安全検討部会について

部会の基本的な考え方，これまでの確認事項，経過と今後の予定について，資料２に基づき，教育委員会から説明を行った。

３　第２回の内容について

前回の協議内容について，資料３に基づき，教育委員会から説明を行った。

＜前回出された意見に係る説明＞

京北第一小グループ

①　宇津線は，現在朝便のみスクールバスと路線バスの一本化の社会実験中。大型車両バスであり，児童全員座ることができており，特に問題ない。

→（教育委員会）４月から朝便が路線バスに一本化されたが，教育委員会としても，特に問題なく運行されていると認識している。

②　余野線・長野線は，ともにスクールバスと一般との混乗だが，一般客はほとんど乗車していないので，このまま混乗でもよい。

③　城山は，冬場は積雪・凍結により，徒歩通学は危険。八千代橋からバス乗車することも考えられる。

→（教育委員会）本日の部会で，地域の実情に応じた乗車範囲を検討いただきたい。

京北第二小グループ

④　スクールバスか，路線バスかを決めて頂きたい。路線バスは，定期券でいつでも乗車でき

るが，スクールバスは，土日に部活動等で利用できないという課題があるのでは。
→（教育委員会）通学方法として，スクールバスか路線バスかについては，利点と課題がある。その中で，子どもたちの安全な通学手段の確保を第一に考えながら，利便性や地域全体の公共交通体系という視点から検討していただきたい。

⑤　統合により，新たにバス通学する子どもへ配慮してほしい。
⑥　通学面でも統合して良かったと思えるように。
→（教育委員会）新たにバス通学する子どもにとっては負担もあると思うが，一方で車内マナーなど，学ぶことも多い。できる限りの配慮はしたい。

⑦　できるだけバスの乗車時間を短くしてほしい。
⑧　黒田の子どもは，統合すれば現状より乗車時間が６分延びる。
→（教育委員会）通学に係るバスの乗車時間については，現状よりも若干長くなる地域があるので，子どもたちの負担ができるだけ大きくならないような方策を検討していきたい。

⑨　殿橋付近は歩道がなく，統合を機に歩道の整備や橋の新設等を検討してほしい。
⑩　下地区から側道沿いに歩いて通学することも考えられるが，外灯等が必要。
⑬　自転車通学対象範囲の拡大という声もある。対象学年も検討してみては。
→（教育委員会）本日の部会で，地域の実情に応じた乗車範囲，自転車通学の範囲を検討頂きたい。地区単位で，あるいは地区内でも集落単位で通学方法を決めるという考え方もある。

⑪　中江地区の子どもは，あまり徒歩について気にしていない。
⑫　小塩線の路線バスを小型にして中江地区に入ってほしい。お年寄りも乗車でき便利になる。
→（教育委員会）第１回の部会で，「バス通学において走行する経路（道路）は，冬季の積雪・凍結，バス車両の転回，通学所要時間等を考慮し，１年間を通じて子どもたちが安全かつ安定して通学できるようにするために，現在のふるさとバスが走行している道路を走行することを基本とする」ことが確認されている。

中江地区の子どもは現在も徒歩で第二小へ通っているが，現地を検証したところ，当該地区から国道までの徒歩距離は約１～1.5ｋｍであり，最も遠い所から，実際に児童と一緒に歩いたところ，第二小近くにある最寄りのバス停まで約 17 分であった。子どもたちは集団登校で楽しく歩いており，特に負担になっているようには見受けられなかった。この徒歩距離・所要時間は，現在の京北地域，市街地，市郊外地域のいずれの地域にも見られるもので，小学生の通常の登校である。統合後も，徒歩の距離は変わらない。なお，乗車時間は約６分であり，通学時間は全体で約２５分程度となる。

一般的に，一定の距離を歩くことは体力面から大切という意見もある上に，子どもたちが地域内で歩き，大人が見守るという現在の中江地区の登校の姿は子どもと地域との結びつきにとっても良いことである。以上から，特定の地区だけを特別扱いすることは難しい。

京北第三小・周山中グループ

⑭　京北第三小校区の小学生は全員バス通学が良い。バスは２台必要ではないか。同校区の中学生も自転車通学を認めてもよいのでは。

⑮　小学１年生については，最初の半年ぐらいは支援が必要であり地域の見守りも大事。

⑯　歩くということも大事。現在通学で歩いているので，体力がついてきている。

→（教育委員会）乗車範囲は決めて頂いたうえで，実際の運用は，各地区の実情により判断するというのも一つの考え方である。

⑰　スクールバスありきで考えるのは良くない。公共交通を確保し，地域住民とともに子どもも利用する方が良い。路線バスをもっと利用しやすいようにする必要がある。

⑱　路線バスも現状ありきではなく，効率化することも大事。子どもの通学のことだけではなく，公共交通の在り方としても考える必要がある。

→（教育委員会）通学方法として，スクールバスか路線バスかについては，利点と課題がある。その中で，子どもたちの安全な通学手段の確保を第一に考えながら，利便性や地域全体の公共交通体系という視点から検討していただきたい。

４　協議

通学バスの運行方法を検討するに際しての留意事項や，スクールバスと路線バスとの比較について，資料４に基づき教育委員会から説明を行った後，統合時に想定される通学バスの乗車人数や乗車時間が記載された資料５を参考とし，学校単位（①京北第一小　②京北第二小　③京北第三小・周山中）に分かれ，「乗車範囲と通学バスの運行方法」をテーマに協議を行った。

①京北第一小グループの主な意見等

＜乗車範囲について＞

○現状どおりで良いと思う。

○城山地区などから新たにバスに乗りたいという声もあるが，乗車する・しないは集落単位で統一する必要がある。集落の児童間で，乗車する・しないが異なると，学校は乗車対象者の把握が煩雑になり，登下校の安全指導に影響が出る。

○現在の徒歩通学の地域は，これまでも徒歩であったので，変える必要はないと思うが，積雪時の対応などは課題である。

＜運行方法について＞

○今年度から宇津線の登校時が路線バス化しているが，支障はない。これまでスクールバスと路線バスで別々に来ていた小学生が一緒に来るようになったうえ，中学生とも一緒になっているので，車内で良い環境ができている。

○路線バス化したことで，乗車に時間がかかると周山でＪＲバスに乗り換える人に影響が出てしまうので，プレッシャーはある。

○路線バスでの登下校に問題はないと思うが，校外活動や臨時の対応に課題があると思う。ただ，そのためにスクールバスを走らせて，バスが２台連なるのも非効率的である。これ

まで，２台走ることの非効率性を解消するために一本化してきた。

○バスの台数が増えると運転手も必要であるが，運転手の確保は容易ではないと思う。

＜その他＞

○バス通学していると子どもに体力がつかない。徒歩通学の児童と体力に差を感じる。

○倒木があったが，すぐにふるさと公社が対応してバスが通れるようになった。大変ありがたい。

②京北第二小グループの主な意見等

＜乗車範囲について＞

○下地区など，新校に近くなる子どもたちもバスに乗車することになるのか。子どもたちの安全を考えれば，全員乗車を基本とした上で，地区によっては徒歩通学も可という方法もあるのではないか。ただ，徒歩通学となると，道路整備や外灯設置などの検討が必要になる。

○中江地区にバスが入るのは難しいか。（第１回通学安全検討部会の確認事項及び前回意見への回答（上記３⑫に係る回答）を基に，中江地区にバスを乗り入れることは困難である旨，教育委員会から説明。）

○歩くことは体力向上にもつながり，一定距離を歩くことは必要だと思う。

＜運行方法について＞

○子どものことを考えればスクールバスがいいのではと思うが，将来を見据えた地域の足の確保も大事な視点として考えないといけない。

○子どもの通学手段と地域の移動手段とを同じ次元で考えるのはどうかと思う。スクールバスの方が，いろんなことにも対応しやすい。花背小中学校では夏休みでもスクールバスが運行している。路線バスだと，子どもを学校に預けるというよりふるさと公社に預ける形になり，安全上の懸念がある。

○資料では路線バスの時刻表による乗車時間になっているが，実際にはそれ以上の時間がかかっており，子どもが乗車すると，さらに時間がかかる。通学時間をもっと短くするべき。

○通学時間も大事だが，時間の短縮によって安全性が問題とならないようにすることも大切。

○路線バスで通学し，地域の方が見守るという形はいいと思う。ただ，子どもが車内で騒ぐなどし，同乗している一般の方に迷惑をかけてしまわないかが気になる。

○社会性を養う観点から，学校で子どもたちに乗車マナーを教えていくことも必要である。

○路線バスによる通学であれば，学休時や部活等でも定期券で路線バスに乗車できるのでありがたい。

○バスの運行方法はともかく，通学に必要となるバスをどのような形で運行するのが良いかを考えることが大切。

＜その他＞

○東山開睛館の見学に行ったが，中学生が低学年の小学生に教えている姿がよかった。

③京北第三小・周山中グループの主な意見等

○井崎・塩田付近の中学生は，自転車通学を望んでいるかもしれない。

○将来的に，ふるさとバスの運行事業は維持されるのか。現在，ふるさとバスの主な利用者が児童生徒であるなかで，通学方法をスクールバスにすると，ふるさとバスの運行事業は難しくなるのではないか。

○将来的なことを考えれば，ふるさとバスに全員乗車するべきだと思う。

○中学生の通学は現状で特に問題ないが，気象警報発令時等，バス時刻まで待つ必要がある。

5　まとめ

グループ協議で出た意見をもとに，確認事項等を各校長から発表した。

①京北第一小グループ

○通学方法については現状どおりで良い。

○新たにバスに乗りたいという声もあると思うが，乗車するかどうかは地区単位で考えをまとめる必要があるのではないか。

○スクールバス・路線バス双方の利点・課題はあるが，子どもたちが安全に通えることを大前提に，予算的なことも踏まえ効率的に運行していくことが必要である。

○地域の交通機関の維持・向上という視点も必要である。

②京北第二小グループ

○地区ごとに集団登校で最も近いバス停まで歩き，バスで通学するというのが，子どもたちの安全を考えれば一番よい。

○スクールバスと路線バスにはそれぞれ利点や課題があり，現時点では，運行方法に関する意見はまとまっていない。

○通学に必要なバスを確保するという前提のもと，学校のカリキュラムや教育活動に応じていかに効率的な活用を図るかが大事である。

③京北第三小・周山中グループ

○第三小校区の児童生徒は，全員バス通学する。

○地域の将来の公共交通の在り方を考え，ふるさとバスで通学することで良い。

○弓削線・田貫線の２路線を活用することとし，どちらの路線バスに乗車するかは，乗車人数を勘案し，今後検討していく。

＜確認・決定事項＞

本日出された意見を事務局で整理し，次回の会議で，乗車対象範囲や運行方法に関して，引き続き議論が必要な事項について検討する。

6　次回の開催日程について

第４回会議は，９月頃に開催する。